

優秀賞

困難に立ち向かった先にある感動

千葉県 佐倉市立上志津小学校五年 和田 知洋

ぼくは、夏休みに家族旅行で黒部ダムへ行きました。ぼくのおばあちゃんの田舎が富山県で、ぼくが幼稚園のころから黒部ダムの話は聞いていましたが、夏でもとても涼しく雪が残っていて、きれいな景色であるという事くらいしか覚えていませんでした。

ぼくは、黒部ダムについて何も知らなかったので、旅行に行く前に少しでもダムについて調べようと思いました。

黒部ダムは、富山県と長野県の間にある立山黒部アルペンルートの中にあります。また、このアルペンルート的大部分は中部山岳国立公園の中にあるために、一般車両が入る事はできません。その代わりに、排気ガスを出さない電気バスや、ケーブルカーやロープウェイを乗り継いで行く事が分かりました。

また、ぼく達が黒部ダムと呼んでいるダムは、正式名は「黒部川第四発電所」別名「くろよん」と呼

ばれ、太平洋戦争からの復こうで、関西の電力不足を解消するために造られたダムである事が分かりました。

そして、ぼくが黒部ダムについて調べた時に一番強く印象に残ったのは、長野県側のトンネルで発生した破砕帯という地層を突破した工事です。地下水をふくんだ地層から水と土砂がふき出し、八十メートル進む工事に七か月を費やしたそうです。この破砕帯を見たくて、ぼくは長野県側の扇沢駅から電気バスに乗り、黒部ダムへ行きました。

バスに乗りしばらくすると、間もなく破砕帯を通過するというアナウンスがありました。ぼくは、バスの窓から破砕帯を見ました。工事から六十年以上経過した今でも、一部の破砕帯からは水が滝のように流れていました。工事中は極寒の中、ものすごい勢いで出てくる水に向かって工事をして、ダムを完

成させるために困難に立ち向かった人達のすごさと、あきらめない気持ちを教えてもらいました。

ぼくは、当時命がけてトンネルを工事してくれたからこそ、こんなに簡単にダムまで行く事が出来るようになったんだと思い、感謝の気持ちが生まれました。

そして、バスはいよいよ黒部ダム駅に到着しました。ダム展望台まで続く二百二十段の階段を上りながら、ぼくはとてもドキドキして、早くダムを見たいという気持ちと、そこから見る事が出来る風景にワクワクしました。展望台から見た黒部ダムの絶景に、ぼくはしばらく何も言えませんでした。ダムから勢いよく放出される水しぶきに虹がかかり、黒部川に優しく降り注いでいます。立山には雪が残っていて、涼しい風の中をたくさんさんのトンボが気持ち良さそうに飛んでいます。

ぼくは、目の前に広がる黒部ダムの絶景と、人が造ったダムなのに自然と一体になった圧倒的なダムの存在感にとっても感動しました。そして何よりも、命をかけてダム工事を完成させた人達に心から感謝し、ダム建設で亡くなった百七十一人を供養するきれいに手を合わせました。

